
鳥男の三原則

猿読み

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鳥男の三原則

【Nコード】

N4287B

【作者名】

猿読み

【あらすじ】

正樹は、死んだ兄に会いに行くため、空を飛ぶ練習をする。少し淋しいお話

僕は鳥みたく空を飛んで、お兄ちゃんに会いに行くんだ。

お母さんが言ってたもん、お兄ちゃんはもうお空の上に行っちゃったって。

だから僕は鳥みたく飛んで、お空の上にいるお兄ちゃんに会いに行くんだ。

僕は鳥みたく手をばたつかせた、でも飛べない。

あきらめちゃダメだ！

きつと毎日続けたら飛べるようになる。

僕は毎日飛ぶ練習をした。そんなある日、夢にお兄ちゃんが出てきて言ったんだ。

「正樹、鳥男の三原則って知ってるか？」

「知らない、何？お兄ちゃん」

お兄ちゃんは嬉しそうに答えた。

「飛ぶための三原則って事だよ。」

「えっそれがわかれば飛べるの?」

「ああ飛べるとも。」

「教えて!教えて!」

「仕方ないなあ、一つだけ教えてやるよ。」

一つ、加速をつける事

まあ頑張れ。」

そこで夢が終わった。

そうか加速が大切なのか。

僕はさっそく走って飛んでみた。

ダメだ、高く飛べるようになったけど、それが持続しない。

ただどあきらめちゃダメだ！毎日続けたら飛べるようになる。
そう自分に言い聞かせて練習をした。

次の日の夜も僕はお兄ちゃんの夢をみた。

「なんだよ正樹、まだ飛べないのか？
仕方ないなあ、もう一つだけ教えてやるよ。

一つ、決して下は見ない自信を持って飛ぶ事

わかったか？」

「わかんないよ！もう一つ教えてよ！お願い。」

「じゃあねえなあー、わかった。教えてやるよ。」

「本当！？ありがとう、お兄ちゃん」

「それじゃ、言つぞ。

一つ、とても高い所から飛ぶ事

それじゃ俺は先に待ってるからな。」

「うん！すぐ僕も行くよ」

僕はマンションの屋上に入った。

そして鳥男の三原則を確認した。

一つ、加速をつける事。

僕は屋上の端から全力で走った。

一つ、決して下は見ない、自信を持って飛ぶ事。

僕は自分に言い聞かせた。

「大丈夫、絶対に飛べる。」

一つ、とても高い所から飛ぶ事。

僕はマンションの屋上から飛び降りた。

身体が軽い

やった！

僕飛んでる！

「いや、落ちてるんだよ」

耳元でお兄ちゃんの声が聞こえた。

そして僕は堅いコンクリートに叩きつけられた。

お母さんが言った。

「正樹もお兄ちゃんと一緒の所に行ったのね。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4287b/>

鳥男の三原則

2010年10月10日17時26分発行